

図書館の自由

第129号(2025年12月)

日本図書館協会 図書館の自由委員会

<もくじ>

<u>1. 「図書館員の倫理綱領」制定45周年記念講演会開催のおしらせ</u>	1
<u>2. 「図書館員の倫理綱領」ポストカード販売開始のおしらせ</u>	2
<u>3. セミナー「図書館の自由2025」開催報告</u>	2
<u>4. 図書館の自由・表現の自由をめぐる記事紹介</u>	4
(1) 図書館への不正アクセス・情報流出・個人情報の紛失	
(2) 米国の図書館界と知的自由をめぐる状況	
(3) ドイツ・ミュンスター市立図書館、蔵書への注意書き貼付への削除命令	
(4) 最近の出版物の回収・差し替え	
<u>5. 新聞・雑誌記事スクラップ</u>	8
<u>6. 委員会からのそのほかのおしらせ</u>	12

1. 「図書館員の倫理綱領」制定45周年記念講演会開催のおしらせ テーマは「知的自由の戦後80年と現在地」

「図書館員の倫理綱領」(以下、倫理綱領)は、1980年6月、「図書館の自由に関する宣言」(以下、自由宣言)と表裏一体をなすものとして制定されました。倫理綱領は、自由宣言に記された知的自由の担い手である図書館員の専門性をまとめたものですが、現在ではあまり顧みられることがないように思われます。

「利用者を差別しない」「自由で公正で積極的な資料提供に心がけ(る)」「図書館員は個人的、集団的に、不斷の研修につとめる」「社会の文化環境の醸成につとめる」など、倫理綱領には、現在の知的自由の状況を考える上で重要なキーワードもみられます。

戦後80年を迎えるいま、倫理綱領を読み直し、日本の、そして世界の図書館を支えてきた知的自由の「現在」を考えてみませんか？

- 日時：2026年2月14日(土) 14時～16時30分(13時30分開場)
- 場所：日本図書館協会 2F 研修室(〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14)
(Zoomによるリアルタイム同時配信あり)
- 参加費・資料代：個人会員・施設会員・学生 550円／一般 1,100円(いずれも税込)
- プログラム：
 - ① 講演「図書館員の倫理綱領」の来し方と行く末：思想と選択を中心に
→ 京都大学准教授 福井 佑介 氏
 - ② 講演 自由で豊かな言論公共空間としての図書館：自由のための倫理を考える
→ 専修大学教授・図書館の自由委員 山田 健太 氏
 - ③ 質疑応答・フロアとのディスカッション
- 申込期日・方法：2026年1月30日(金) ※定員になり次第受付終了いたします
■ 詳しくは、JLA HP内、図書館の自由委員会サイト(右QRコード、または

リアルタイム同時配信は①②の講演部分のみとなります



<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/j-seminar/seminar2025-2/>)まで
会場50名、オンライン75名、先着順となりますのでお早めにお申込みください！

■ 講師の主な著書等

- 福井 佑介(ふくい ゆうすけ)氏: 『図書館の社会的責任と中立性: 戦後社会の中の図書館界と「図書館の自由に関する宣言」』松籟社, 2022 | 『図書館の倫理的価値「知る自由」の歴史的展開』松籟社 2015 | 「図書館現象の時代における「知る権利」と「知る自由」』『現代思想』53巻6号, 2025.4, pp.184-195.
山田 健太(やまだ けんた)氏: 『転がる石のように: 揺れるジャーナリズムと軋む表現の自由』田畠書店, 2025 | 『ジャーナリズムの倫理』勁草書房, 2021 | 『法とジャーナリズム』第4版 効率書房 2021 | 『沖縄報道』(ちくま新書)筑摩書房, 2018

2. 「図書館員の倫理綱領」ポストカード販売開始のおしらせ

図書館の自由委員会は、その任務の一つとして、「図書館員の倫理綱領」の趣旨の普及並びに維持発展を掲げています(委員会規程第2条)。倫理綱領45周年記念講演会とあわせて、綱領の普及を目的としたポストカードを制作し、販売することとなりました。

図書館でのカウンター用のミニサイズのポスターとして、司書課程の教材など、ポストカード以外の用途にもご活用いただけます。

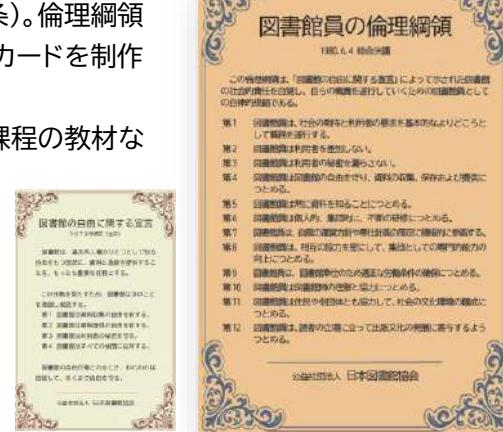
昨年、「図書館の自由に関する宣言」採択70周年を記念してデザインをリニューアルした自由宣言ポストカード(左下)とあわせて、ぜひお買い求めください。

■ 製作枚数: 5,000枚

■ 価格: 1セット10枚入り、単価100円(税込み)

■ 購入方法: 図書館の自由委員会主催事業、日本図書館協会の各種事業、図書館関係団体の各種事業の会場にて直販

※郵便切手での支払いも可能(図書館の自由委員会事務局へ事前にご相談ください
／連絡先は本誌奥付に記載)



3. セミナー図書館の自由2025「ぶらっしゅあっぷ！図書館の自由」開催報告

図書館の自由委員会では、初の試みとして、オンデマンド形式でのセミナーを2025年10月1日から10月31日までの1ヶ月間、開催いたしました(受講料は日図協会員1,100円、一般2,200円)。

セミナーの概要は以下の通りです。

- ① 基調講義 井上靖代 委員「概観・図書館の自由」
② 事例報告「日常の▲モヤモヤ、どう考えればよい？」

千錫烈 委員「うちの子さがしています」「認知症の利用者」「つきまとい・ストーカー」

松井正英 委員「学校図書館と利用者の秘密」

猪股篤 委員「図書館と防犯カメラ問題行動に対応するために」

山口真也 委員「著作権侵害を理由とした利用制限の要請が届いたら？」

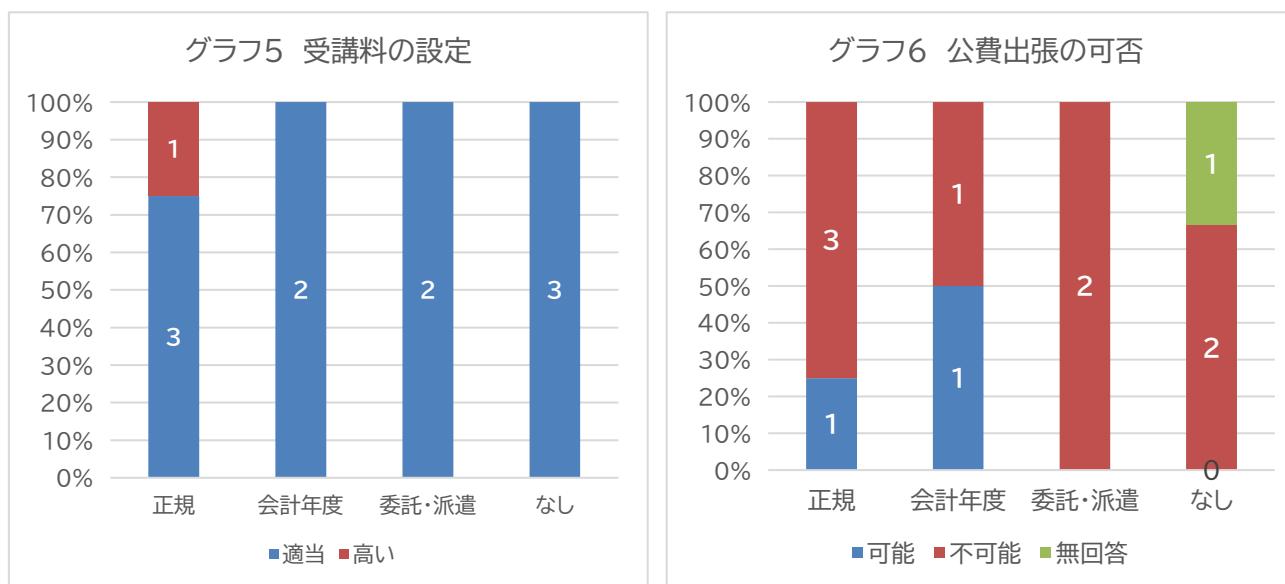
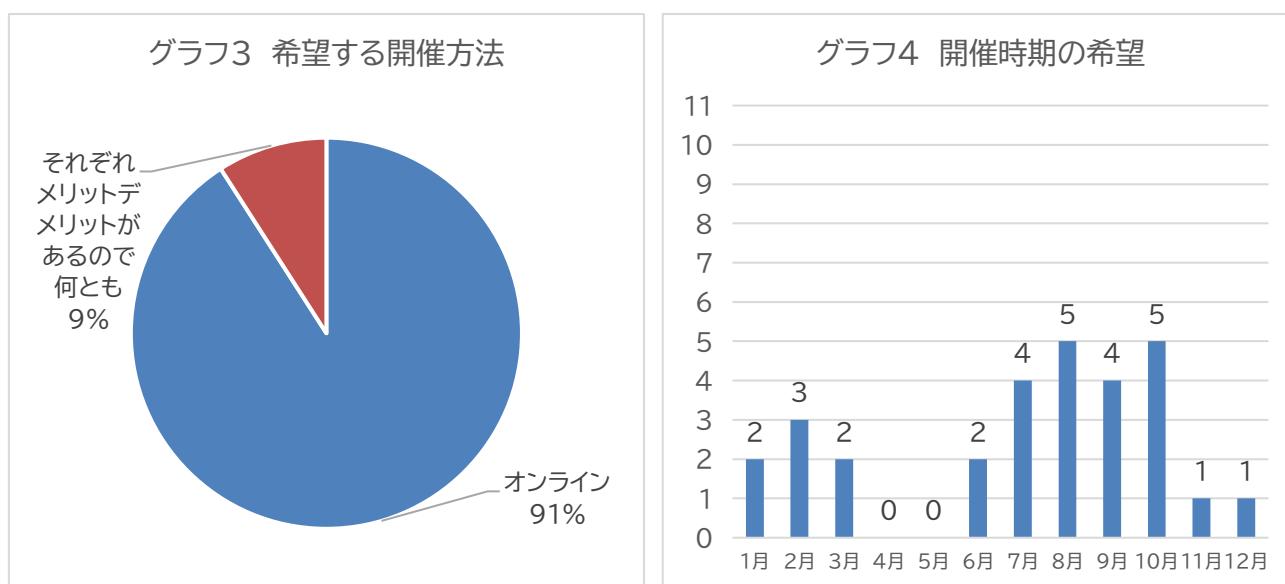
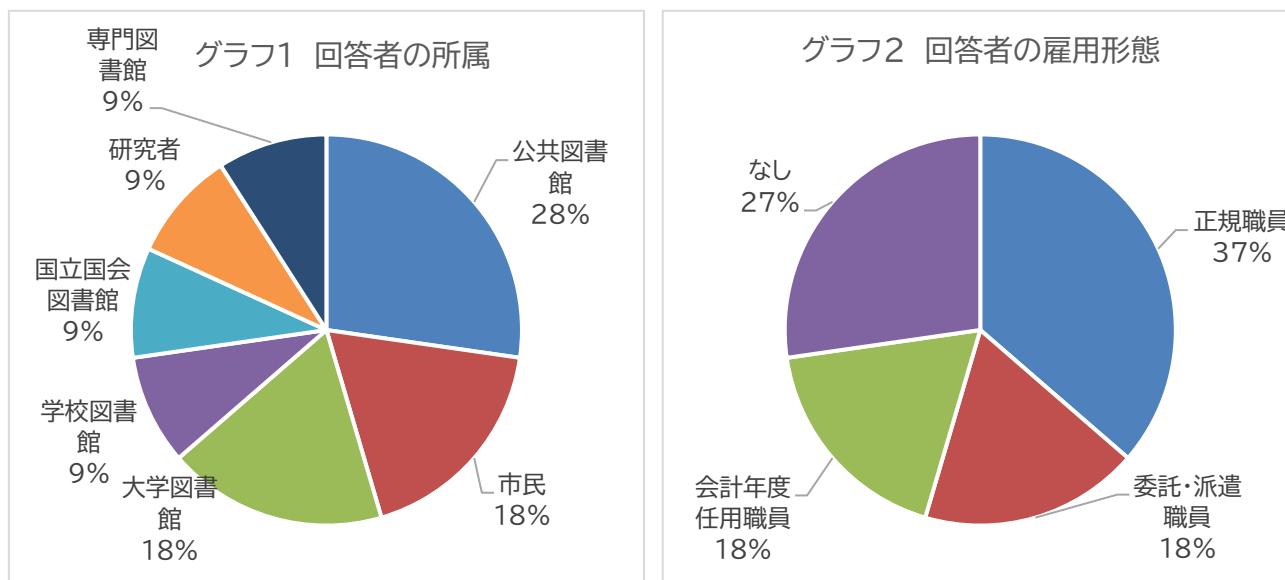
- ③ おわりに(伊沢ユキエ 東地区委員長・セミナー実行委員長)

本セミナーは当初、対面での開催を企画していましたが、諸事情によりオンデマンドでの開催に切り替えて実施することとなりました。対面でのご参加を希望されていた方には改めてお詫び申し上げます。

申込総数は53名、総視聴回数は427回でした。

視聴後にご回答いただいたアンケートの結果と自由記述欄に寄せられた声を一部ご紹介します。

(回答期間:2025年10月1日~11月28日、有効回答数11)



アンケートの自由記述欄には、今回のセミナーの内容について、“図書館の自由については行政職の人には十分に理解を得られないで広く見てもらいたい内容でした”、“刺激を受けて頑張ろうという意欲を掻き立てられた”、“充実した内容だったが、本数が多く、1ヶ月内に視聴することが難しかった”、“資料をダウンロードできるようにしてほしい”といった、ご意見・ご感想も多数お寄せいただきました。

本セミナーは自由委員会の定例事業として次年度以降も開催を予定しています。いただいたご要望をふまえて、開催方法や開催時期などを検討いたします。ご視聴、ご意見、ありがとうございました。

4. 図書館の自由・表現の自由をめぐる記事紹介

(1) 図書館への不正アクセス・情報流出・個人情報の紛失

2025年11月5日、国立国会図書館において、委託先の再委託先事業者である株式会社ソリューション・ワンのネットワークがランサムウェアの攻撃・侵入を受けたことに起因し、委託先が管理する当該開発環境に対し不正アクセスが行われたことが確認された。不正アクセスの影響は当該開発環境に限定されており、国立国会図書館の各種サービスや情報基盤への影響は確認されていないものの、少なくとも当該開発環境のサーバー構成情報等、システム開発に用いる情報のほか、一部の利用者情報及び利用情報が漏えいした可能性があるという。『朝日新聞』などの報道によると「利用者約4千人の氏名などの個人情報が約4万件流出した恐れ」があるとされ、電子化された資料の印刷サービスを申し込んだ利用者情報の内、氏名や印刷した資料のタイトルと料金が含まれているという。国立国会図書館は、当該開発環境へのアクセスを遮断するとともに、セキュリティリスクの高まりを受けて、国立国会図書館の各種情報環境への監視を強化するとともに、不正アクセスの詳細について調査を進め、情報漏洩について適切に対応すると発表している。

個人情報の流出や不適切な取り扱いは、他の図書館でも起こっている。10月28日、佐賀県・伊万里市教育委員会は市民図書館のウェブサイトにて、過去の職員採用試験の受験者1人の申込書が誤って掲載され、外部からの指摘を受けるまで、顔写真のほかに氏名、住所、電話番号、学歴や職歴などが閲覧可能な状態になっていたことを報告している。10月31日には、群馬県が、県立点字図書館において、同館の会誌を送信する際に、「C C」にメールアドレスを入力し、106名に誤送信する事案があったと発表、11月11日には、北海道札幌市の「厚別図書館で本の貸出券を作るための「個人貸出登録申込書」に記載された個人情報を少なくとも140人分紛失したこと』を『北海道新聞』が報じている。各図書館においては、個人情報・プライバシー保護のあり方を再点検して、細心の注意を払ってほしい。

※関連記事

- 「開発中のシステムに対する不正アクセスの発生について(付・プレスリリース)」『国立国会図書館』2025.11.11. https://www.ndl.go.jp/jp/news/fy2025/251111_01.html
- 「国立国会図書館様の発表について」『広報誌 IJJ.News』2025.11.11. <https://www.ijj.ad.jp/>
- 「国会図書館にサイバー攻撃 コピーサービス利用情報4万件流出の可能性」『日本経済新聞』2025.11.1. 16:11. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC1162G0R11C25A1000000/>
- 「国立国会図書館、不正アクセス 利用者氏名や資料流出の可能性」『Yahoo! ニュース(共同通信)』2025.11.11.15:55. <https://news.yahoo.co.jp/articles/6644e078c2d1d0e4ccbbde4a9106ae66cb92cb78>
- 「国立国会図書館、個人情報漏えいの可能性 新システムの再委託業者に不正アクセス」『ITmedia NEWS』2025.11.11. 17:13. <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2511/11/news105.html>
黒田健朗「国会図書館、氏名4千人分流出か 開発中のシステムにランサムウェア」『朝日新聞』2025.11.11. 17:23. <https://www.asahi.com/articles/ASTCC2PH8TCCULFA01NM.html>
- 「国立国会図書館、不正アクセスを公表・謝罪 外部委託の開発中システム 一部利用者情報など漏えい可能性」『産経新聞』2025.11.11 15:09. https://www.sankei.com/article/20251111-LVFM_VPIKJVMQNMDHAUQSVKIRSA/?outputType=theme_oriconnews
- 山田貞幸「国会図書館で開発中のシステムに不正アクセス、情報漏えいの可能性」『2025.11.11. 20:4

8. <https://internet.watch.impress.co.jp/docs/news/2062425.html>
- ・「国立国会図書館、情報流出か 外部委託業者に不正アクセス」『ASCII.jp×デジタル』2025.11.12. 10:55. <https://ascii.jp/elem/000/004/351/4351101/>
 - ・「国立国会図書館 開発中システム 再委託先に不正アクセス、一部の利用者情報等 漏えいの可能性」『ScanNetSecurity』2025.11.17. 08:05. <https://scan.netsecurity.ne.jp/article/2025/11/17/54046.html>
 - ・「国会図書館、4 万件超の個人情報流出か 委託先に不正アクセス」『ASCII.jp×デジタル』2025.11.27 日.11:50. <https://ascii.jp/elem/000/004/355/4355106/>
 - ・「市民図書館ホームページにおける個人情報の誤公開について」『伊万里市』2025.10.28. <https://www.library.city.imari.saga.jp/wysiwyg/file/download/33/1632>
 - ・「伊万里市民図書館、ウェブサイトに過去の職員採用試験の受験者 1 人の個人情報を誤って公開 氏名、住所、学歴や職歴など」『佐賀新聞』2025.10.28 20:53. <https://www.saga-s.co.jp/articles/-/1582381>
 - ・「個人情報の誤送信事案の発生について(障害政策課)」『群馬県』2025.10.31. <https://www.pref.gunma.jp/site/houdou/728994.html>
 - ・「点字図書館でメール誤送信 群馬県」『上毛新聞』2025.11.04. 17:00. <https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/801056> (リンク切れ)
 - ・「会報誌データのメール送信時に誤送信 - 群馬県立点字図書館」『Security NEXT』2025.11.13. <https://www.security-next.com/177099>
 - ・綱島康之「個人情報 140 人分 札幌市厚別図書館が紛失 誤って破棄か」『北海道新聞』2025.11.11. 21:04. <https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1236740/>

(2) 米国の図書館界と知的自由をめぐる状況

本誌でこれまで取り上げてきたように、米国では、禁書の動きが公共図書館・学校図書館に広がっている。第二次トランプ政権誕生後もこうした動きはさらに加速しており、社会全体での知的自由をめぐる混乱も広がっている。

2025年7月には、国立歴史公園にあるグッズショップにおいて、歴史をテーマとした書籍のいくつかがターゲットとなり、販売禁止令が発出されたという。理由は「さびついた古い歴史である」ということらしい。販売禁止の対象となった図書は、ハリエット・アン・ジェイコブズの『Incidents in the Life of a Slave Girl』(日本語訳は『ある奴隸少女に起こった出来事』大和書房・2013、新潮社・2017)や『Slavery and Public History: The Tough Stuff on American Memory』などがある。

※関連記事（英文の記事には自動翻訳によるタイトルを付しています）

- ・ Garrett Owen「National park gift shops move to ban “corrosive” history books The National Park Service is flagging history books in an effort to purge negative representations of the U.S.(国立公園のギフトショップが「腐食性」の歴史書の禁止に動く)」『Salon』2025.07.31.13:10. <https://www.salon.com/2025/07/31/national-park-gift-shops-move-to-ban-corrosive-history-books/>
- ・ 「Park gift shops could remove books on slavery and the Civil War(公園のギフトショップは奴隸制と南北戦争に関する本を撤去できる)」『Washington Post』2025.07.25. <https://www.washingtonpost.com/climate-environment/2025/07/25/parks-gift-shops-banned-books/>
- ・ アンナ・シャープ「Autobiographies and books on slavery at risk for removal from Charleston historical site gift shops.(チャールストンの史跡ギフトショップから撤去される危険にさらされている奴隸制に関する自伝と本)」『Post and Courier』2025.07.31. https://www.postandcourier.com/charleston-sc/fort-sumter-moultrie-national-park-books-review/article_10fdf5f6-3b8d-420e-ae63-c55ac1d1ca0b.html

- 「Donald Trump made more changes to national parks. How it affects Colorado (ドナルド・トランプは国立公園にさらなる変更を加えた。コロラド州への影響は?)」『Coloradoan』2025.07.09. 20:04. <https://www.coloradoan.com/story/news/local/colorado/2025/07/09/colorado-national-parks-entry-trump/84517340007/>

米国図書館での禁書の動きについて、ドキュメント作品としてその実情を伝えようとする動きもある。日本国内でも放送された「世界のドキュメンタリー ねらわれた図書館 アメリカ“分断の最前線”」(原題: LIBRARY WARS、フランス／カナダ、2024年制作)のほか、米国での禁書をテーマとした映画「The Librarians」が2025年1月にサンダンス映画祭でワールドプレミア公開され、9月からNYやロンドンなどで劇場公開されている。テキサス州フロリダ州で前例のない禁書の波が起こり、その他、民主主義の最前線で知的の自由のために戦う、“あり得ない弁護人(unlikely defenders)”として包囲された図書館員が力を合わせる姿が描かれているという。

各サイトで視聴できる予告編は、「This can't be America. No, this can't be America.(これがアメリカであるはずがない)」と締めくくられている。

※関連記事

- 「キム・A・スナイダー監督「THELIBRARIANS」」2025.09. <https://thelibrariansfilm.com/>
- 「The Librarians Film(Facebook)」2024.12.12. <https://www.facebook.com/TheLibrariansFilm?locale>
- 「The Librarians (2025 film)」『Wikipedia』2025.1.26.15:16. [https://en.wikipedia.org/wiki/The_Librarians_\(2025_film\)](https://en.wikipedia.org/wiki/The_Librarians_(2025_film))
- 「The Librarians」『IMDb』2025.09.26. <https://www.imdb.com/title/tt34966678/>

米国では、このほかにも、国旗焼却禁止令への署名(8月)、大学助成凍結への違法判決(9月)、政府機関の閉鎖による議会図書館でのサービス停止(10月)、などの動きがあった。ペンシルバニア州の大学図書館の連合体を含む図書館コンソーシアムによる言論の自由に関する共同声明の発表(10月)もあった。日本の図書館界にも関わりのある出来事として今後も動向を注視したい。

※関連記事

- 「米、多様性めぐる「検閲」で論争 トランスジェンダーの女神像」『時事通信』2025.08.11. 17:57. <https://www.jiji.com/jc/article?k=2025080900321&g=int>
- 「「星条旗を燃やせば1年の収監だ」…トランプ氏、最高裁が「表現の自由」とした国旗焼却で訴追を指示」『東京新聞』2025.8.26. <https://www.yomiuri.co.jp/world/20250826-OYT1T50125/>
- 「トランプ氏、国旗焼却禁止令に署名 「表現の自由適用せず」—支持者反発・米」『時事通信』2025.08.27. https://www.jiji.com/jc/article?k=2025082700621&g=int#goog_rewinded
- 「トランプ政権で消える政府サイト 記録を残す、ライブラリアンの攻防」『朝日新聞』2025.08.29. <https://www.asahi.com/articles/AST8942GZT89UHMC00KM.html>
- 「米ハーバード大学への助成金凍結 連邦地裁が取り消し命じる」『NHK NES WEB』2025.09.04. <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250904/k10014912381000.html>
- 「米連邦地裁、UCLA凍結助成金の復活命じる判断」『ロイター』2025.09.23. <https://jp.reuters.com/world/us/7M445WUBLVPXPE2ST2EQGOWEKI-2025-09-23/>
- 「キンメル氏のトーク番組 23日再開へ、カーク氏射殺巡る発言で休止後」『ロイター』2025.09.23. <https://jp.reuters.com/world/us/VSV2GOYNOZICLD4VUAABLQAFU-2025-09-23/>
- 「トランプ氏、自分を批判するテレビ局は免許取り上げられるべきかもしれない 人気トーク番組の放送中止で」『BBC』2025.09.19. <https://www.bbc.com/japanese/articles/cvg0p4evve7o>
- 「米国で2025年の禁書週間が始まる(10/5-11):テーマは“Censorship Is So 1984. Read for Your Rights.”」『カレントアウェアネス-R』2025.10.07. <https://current.ndl.go.jp/car/259271>

- ・「ハーバード大助成、政権の凍結「違法」米連邦地裁」『朝日新聞』2025.09.05. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16295750.html?msockid=33b1538736c26b2a28bc40e737286af8>
- ・「2025年10月1日に始まった米・政府機関の閉鎖により、米国議会図書館(LC)等でサービスが停止中」『カレントアウェアネス-R』2025.10.02. <https://current.ndl.go.jp/car/259044>
- ・「米MITがトランプ政権の「懐柔案」を拒否…名門9大学で初、「信念と矛盾」「表現の自由や独立を制限」『東京新聞』2025.10.11. <https://www.yomiuri.co.jp/world/20251011-OYT1T50171/>
- ・「米・コロンビア特別区巡回区連邦控訴裁判所、著作権局長の解任措置の一時差止めを命令」『カレントアウェアネス-R』2025.10.28. <https://current.ndl.go.jp/car/260107>
- ・「米・オレゴン州立図書館、州内の図書館や学校における図書等の利用制限申立て等に関する報告書の2025年版を公開」『カレントアウェアネス-R』2025.10.23. <https://current.ndl.go.jp/car/259974>
- ・「米国の三つの図書館コンソーシアム、言論の自由に関する共同声明を発表」『カレントアウェアネス-R』2025.10.24. <https://current.ndl.go.jp/car/260015>

(3) ドイツ・ミュンスター市立図書館、蔵書への注意書き貼付への削除命令

ドイツ・ミュンスター市の市立図書館は、人類の月面着陸や広島・長崎への原爆投下の事実等を否定するノンフィクション資料について、「これは議論の余地のある内容の著作である。この資料は、検閲からの自由、表現の自由及び情報の自由に基づいて利用に供される。」との注記を貼付していた。2025年7月8日、ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州上級行政裁判所は、この注記の削除等の仮処分命令を求めて著者の一人が提起していた緊急申立ての一部を認める決定を下した。この決定に対し、図書館の全国組織であるドイツ図書館協会(DBV)は7月17日付けで声明を発表、フェイクニュースが広まり、情報リテラシー獲得の重要性が増す中、今回の裁判所の決定は、図書館の役割を非常に狭く定義しているとした。

国際図書館連盟(IFLA)は、2018年8月20日に「IFLA STATEMENT ON FAKE NEWS」と題する声明を発表し、政府と図書館への勧告を行っており、2025年10月にも、偽・誤情報に対する図書館の取組事例の提供を呼び掛ける記事が掲載されている。

※関連記事

- ・渡邊齊志「市立図書館が蔵書に否定的な注記を貼付したことを違法とする裁判所の決定(ドイツ)」『カレントアウェアネス-E』2025.10.2. <https://current.ndl.go.jp/e2829>
- ・Juliana Pranke(ドイツ図書館協会)「Curation or Censorship? A Case from Münster (Germany) and its Implications(情報選別か検閲か? ミュンスター(ドイツ)の事例とその影響)」『IFLA Repository』公開年月日不明. <https://repository.ifla.org/rest/api/core/bitstreams/e6826a2e-79db-4016-93fc-95fbc30feebe/content>
- ・「IFLA STATEMENT ON FAKE NEWS」『IFLA』2018.08.20. <https://www.ifla.org/wp-content/uploads/2019/05/assets/hq/topics/info-society/documents/ifla statement on fake news.pdf>
- ・「国際図書館連盟(IFLA)、偽・誤情報に対する図書館の取組事例の提供を呼び掛け」『カレントアウェアネス-R』2025.11.11. <https://current.ndl.go.jp/car/260672>

(4) 最近の出版物への回収・差し替え

KADOKAWAが発行する文庫レーベル「電撃文庫」が2025年7月23日、公式サイトにて、同レーベルの作品でイラストを担当していた「がおう」氏を降板とし、紙書籍の回収を行うことを発表した。過去に未成年と淫行したことなどが暴露されていた点が問題視されたと報じられている。同月、日本文教出版は、『映像でわかる 情報I 共通テスト対策問題集』(初版本)におきまして多数の誤植があることが判明したため、書籍を自主回収し、新版と交換することを同月発表している。誤字・脱字のほか、正答が一意に定まらない等の瑕疵が確認されたという。9月、リベルアル社は、『ひざ痛は自力で治す』(巽一郎監修)において、「内容に不備があったこと」を

理由として、販売停止・回収の措置をとることを発表している。改訂版の刊行予定はないという。どのような点に不備があったかは具体的に明らかにされていない。

いずれも出版社サイトでの発表であり、所蔵館への直接的な回収依頼は行われていないようだが、類似の事例に備えて、「いったん出版されたものについて、それが出版されたという事実を記録するという図書館としての社会的・歴史的役割に即して、回収を要求された版を保持すること、修正版が提供される場合は修正版をも受け入れる」という原則を確認しておきたい。

※関連記事

- ・「イラストレーターがおう氏に関する報道と関連出版物の対応について」『KADOKAWA』2025.07.23. <https://www.kadokawa.co.jp/topics/14258/>
- ・大手出版社 人気作品で「異例」の回収・絶版を発表 作品絵師の“重大”違反が暴露→「本人も事実と…」『よろず～』2025.07.23. <https://yorozoonews.jp/article/15923025>
- ・「『映像でわかる 情報I 共通テスト対策問題集』訂正のお詫びと交換のご案内」『日本文教出版』2025.07. https://www.nichibun-g.co.jp/textbooks/joho/download/r7/joho01_workbook_teisei_2507.pdf
- ・「書籍回収に関するお詫びとお知らせ」『リベラル社』2025.09.29. <https://liberalsya.com/wp-content/uploads/2025/09/7e9c108ca8d33c272d870a7dbfe78481.pdf>
- ・「出版者から回収・差替えの要求があったとき」『日本図書館協会』2017.08.09. <https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/13728292/www.jla.or.jp/committees/jiyu/tabcid/660/Default.aspx>

5. 新聞・雑誌記事スクラップ

（日付順に配列。テーマにより適宜まとめている。有料会員限定記事や公開期間経過によるリンク切れの記事もあるが、見出し情報としてそのまま掲載した。）

2025年8月まで

- ・奥野吉宏(こらむ図書館の自由)「図書館における匿名加工情報の提供と利用者の秘密を守ること」『図書館雑誌』vol.119,no.8, 2025.08, p.459. <https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/column-jiyu/column-jiyu2017/#202508>
- ・「【緊急開催】クレジットカード会社等による表現規制「金融検閲」問題を考える【院内集会】」『うぐいすリボン』2024.12.03. https://www.jfsribbon.org/2024/11/blog-post_23.html
- ・つのだ由美子「「公共図書館はこの国の民主主義の最後の砦だ」 非正規化も進む司書の重要な役割」『PHP ONLINE』2025.07.07. <https://shuchi.php.co.jp/article/12473>
- ・「新聞・雑誌なくす図書館ってあり？ 厳しい財政、自治体の判断に波紋」『中日新聞』 2025.08.24. <https://www.chunichi.co.jp/article/112090>
- ・「生成 AI の記事無断利用、著作権法に「隙」 探る最適解」『日本経済新聞』2025.08.26. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUD224SD0S5A720C2000000/>

戦後80年と図書館の自由

- ・新藤透「戦時体制下の図書館：読書会、読書指導といった「読書環境をめぐる図書館の状況」を中心に」『図書館雑誌』119(8), 2025.08, pp.462-465
- ・名富綾乃「学校図書館での平和教育：子どもの未来をつなぐ学校司書の役割を探る」『図書館雑誌』119(8), 2025.08, pp.468-469
- ・長尾宗典「戦時下の帝国図書館」『図書館雑誌』119(8), 2025.08, pp.476-478

『週刊新潮』、連載コラム終了

- ・「<社説>週刊新潮コラム 差別と認め検証尽くせ」『北海道新聞』2025.08.24. 04:00. <https://www.hokkaido-np.co.jp/article/1202296/>

- ・「週刊新潮へ、作家ら抗議のうねり 差別的表現、繰り返したコラム終了」『朝日新聞』2025.08.27. 05:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16289300.html>
- ・「『週刊新潮』コラムに抗議の作家・深沢潮さん、出版契約を解消へ」『毎日新聞』2025.08.27. 21:03. <https://mainichi.jp/articles/20250827/k00/00m/040/237000c>
- ・「作家側、新潮社と契約解消へ」『朝日新聞』2025.8.28. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16290032.html>
- ・篠田博之「『週刊新潮』連載コラム打ち切りの真相を筆者の高山氏が明かした！ 新潮社には今後抗議デモも？」『Yhao!ニュース』2025.08.31. 11:25. <https://news.yahoo.co.jp/expert/articles/a6f40e88b5ba6549e274530d48cd5028ba151b79>

公共空間と表現の自由

- ・「米サンフランシスコ都心のど真ん中に13メートルの女性裸体像…「恥ずかしい」非難殺到『中央日報/中央日報日本語版』2025.04.15. 09:36. <https://japanese.joins.com/JArticle/332543?sectcode=A00&servcode=A00>
- ・「フィフィ、裸婦像撤去の動き巡り私見「芸術作品をイヤラシイ目で見ている方がどうかと思うよ」」『日刊スポーツ』2025.08.19. 17:29. <https://news.yahoo.co.jp/articles/484cfcead99c11d5326b4f68e7758056de8e1462>
- ・「「時代にそぐわない」街の“裸婦像”撤去の動き 日本ではなぜ公共の場に？“平和の象徴”だったワケ【NST解説】」『TBSNEWS DIG』2025.08.19. 21:57 <https://news.yahoo.co.jp/articles/353f77bbadc91d5cec24acf0dd5a5cfde7a2d1bc>
- ・「”女性の体を卑しい、恥ずかしいということは抗議したい”公共空間の「裸婦像」撤去に 94 歳彫刻家の怒り」『FNN プライムオンライン』2025.08/20. 19:46. <https://news.yahoo.co.jp/articles/b0b711d960bffb021bc956a12915123b44de257a>
- ・「高松市中央公園にある少女の裸像を撤去へ「裸の銅像をなくして」など市民らの声を受け 高松市」『KS B瀬戸内海放送』2025.08.22. 17:46. <https://news.yahoo.co.jp/articles/3786bc47b88e83bc4901142aded61b8bbea10f45>
- ・「全国各地に設置された裸婦像「不快」「芸術」意見割れる 平和象徴から撤去・移設論へ 公共空間は不適切の声も」『FNN プライムオンライン』2025.08.22. 13:00 <https://news.yahoo.co.jp/articles/fb92f66fba108e4cfa372667bcef02ff258b4b04>
- ・「高松市中央公園にある少女の裸像を撤去へ「裸の銅像をなくして」など市民らの声を受け 高松市」『KS B5ch』2025.08.22. 17:46. <https://news.ksb.co.jp/article/15980020>
- ・「公共空間の裸婦像 賛否問題、撤去方針で市長「移設先は市民からの意見を十分踏まえて検討」『読売新聞オンライン』2025.08.25. 12:19. <https://news.yahoo.co.jp/articles/f348561a08c3bf7ee553a91325ed58cb9841e937>

2025年9月

- ・平形ひろみ(こらむ図書館の自由)「歴史記録を今に、未来へつなぐ」『図書館雑誌』vol.119,no.6, 2025.09, p.563. <https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/column-jiyu/column-jiyu2017/#202509>
- ・山口真也・鈴木崇文「図書館の自由・この一年：第 11 分科会 図書館の自由」『図書館雑誌』119(9), 2025.09, p.578,-,
- ・西河内靖泰「図書館の自由」体験報告から「JLA自由委員」の受難—体験を通して考える「図書館の自由」の原則を貫くことの難しさ」『図書館学』(127), 2025.9, pp.28-36
- ・「自民、反軍演説全文の議事録復活を検討」『47NEWS(共同通信)』2025.09.30. 18:38. <https://www.47news.jp/13226847.html>
- ・「「マジックミラー号」の展示にAV撮影…論争を巻き起こした公園の使い方 公序良俗と「表現の自由」の間で」『東京新聞』2025.9.19. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/436821>

『週刊新潮』連載コラム終了

- ・「<社説>週刊新潮コラム 出版社が差別を煽るな」『東京新聞』2025.09.04. 07:44. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/433305>
- ・「新潮社は差別を認めて」「本で人を傷つけないで」…50人が抗議デモ 「週刊新潮」のコラム問題で『東京新聞』2025.09.01. 21:33. <https://www.tokyo-np.co.jp/article/432631>
- ・「『週刊新潮』差別的コラムはなぜ掲載されたのか 安田浩一さん「偏見が潜在化して感性が摩耗した」」『沖縄タイムス』2025.09.24. 13:51. <https://www.okinawatimes.co.jp/articles/-/1676509>

フェイクニュース対策・誹謗中傷・ヘイトスピーチ・SNS規制

- ・「鳥取県、ネット中傷に過料適用へ 人権条例の改正を検討」『毎日新聞』2025.09.02. <https://mainichi.jp/articles/20250902/k00/00m/010/236000c>
- ・「ネットでの中傷・差別に削除要請や過料、鳥取県が人権条例の改正検討」『朝日新聞』 2025.09.09. <https://www.asahi.com/articles/AST984637T98PUUB008M.html>
- ・「法務省、ヘイトスピーチの実態調査へ ネット分析し対策検討」『日本経済新聞』2025.09.16. 20:00. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF166ZR0W5A910C2000000/>
- ・「自民、総裁選で「SNS の誤情報に法的措置」誰が判断するのか…表現の自由侵害の懸念も」『産経新聞』 2025.09.22. <https://www.sankei.com/article/20250922-LR6CG5BMZRCGDHO7QVZN6EO2XM/>

2025年10月

- ・村上孝弘(こらむ図書館の自由)「戦時下の大学図書館－「勤労奉仕出張文庫」のことなど」『図書館雑誌』vol.119,no.10, 2025.10, p.615. <https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/column-jiyu/column-jiyu2017/#202510>
- ・井上靖代(世界の図書館は、いま。(2)「続 アメリカの図書館は、いま。(94) アメリカ図書館協会の変化」『みんなの図書館』582, 2025.10, pp.61-68,
- ・村岡和彦「部落差別事象と図書館をめぐるあれこれ(3) 様々なバックグラウンド」『みんなの図書館』563, 2025.10, pp.45-53
- ・伊沢ユキ工「正義が逆転した時代 神奈川県立図書館の戦時文庫」『みんなの図書館』563, 2025.10, p.69
- ・「特集:「図書館の機器とITインフラ:安全性(セキュリティ)と利便性の両立」」『情報の科学と技術』75(10), 2025.10.01.
森口歩「特集:「図書館の機器とITインフラ:安全性(セキュリティ)と利便性の両立」」の編集にあたって」p. 475／原田隆史「図書館におけるITインフラとセキュリティ:開かれた公共空間を守るために安全性と利便性のバランス」pp.476-487／金岡晃「図書館機器のユーザブルセキュリティ/プライバシ」p.488-491／鹿内祐樹「白河市立図書館～りぶらん～の図書館システム更新と機器の運用について—利用者へ提供するPC環境を中心に」pp.492-497／今満亨崇「情報技術の発展と図書館の情報サービスの安全性、利便性—アジア経済研究所図書館の対応」pp.498-503／赤枝幸子「小規模図書館における安全でコントロール可能なシステム利用事例」pp.508-511
- ・「沖縄県議会、自衛隊員への「差別的な風潮」改める決議可決 エイサーまつり出演巡り」『産経新聞』2025.10.6. <https://www.sankei.com/article/20251008-TAVTP5XOGJMVNHRDCXVWWGVWRI/>
- ・「自公提案の「自衛隊に理解と協力求める」決議 沖縄県議会で可決」『毎日新聞』2025.10.08. <https://mainichi.jp/articles/20251008/k00/00m/010/259000c>
- ・中川七海「長崎新聞、共同通信を「厳しく叱責」 自社批判本の「出版差し止め要望」通らず／谷口誠・元福岡支社長が裁判で証言」『Tansa』2025.10.10. 17:37. <https://tansajp.org/investigativejournal/12673/>
- ・「警察の報道発表は実名か匿名か 本紙が全国アンケート 新聞週間特集」『中日新聞』 2025.10.15. <https://www.chunichi.co.jp/article/1148515>
- ・「法律書デジタル図書館を提訴 出版社や著者が「著作権侵害」主張」『日本経済新聞』 2025.10.15. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF166ZR0W5A910C2000000/>

[ps://www.nikkei.com/article/DGXZQOTG154ES0V11C25A0000000/](https://www.nikkei.com/article/DGXZQOTG154ES0V11C25A0000000/)

- ・「動画生成 AI「ソラ」にまた批判 著名人の「侮辱的」利用に怒る遺族」『朝日新聞』2025.10.15. <https://www.asahi.com/articles/ASTBH0V7HTBHUBHBI00NM.html>
- ・「SNS 監視でビザ取り消し、米主要労組が政権提訴 表現の自由巡り」『ロイター』2025.10.17. <https://jp.reuters.com/world/security/53TJUCLGWRP5TPL5QJF2IXCDWQ-2025-10-17/>
- ・「『マジックミラー号』公園での展示は NG? “公序良俗違反”では不十分…公共施設の利用を行政が規制する「法的妥当性」とは【弁護士解説】」『弁護士JP ニュース』2025.10.26. <https://www.ben54.jp/news/2821>
- ・「戦争体験の記憶を学ぶ意味を考える 日本図書館協会図書館の自由委員会前委員長・西河内靖泰」『長周新聞』2025年10月30日. <https://www.chosyu-journal.jp/kyoikubunka/36246>

『週刊新潮』、連載コラム終了

- ・「作家が新潮社と契約終了「良心を失いたくない」 週刊新潮コラム問題」『好書好日』2025.10.01. [http://book.asahi.com/article/16061075](https://book.asahi.com/article/16061075)
- ・「深沢さん、新潮社と全契約解除」『朝日新聞』2025.10.01. 05:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16313985.html>
- ・文聖姫「『週刊新潮』コラム問題の深層 深沢潮さん「新潮社が差別や人権侵害に向かわないことに絶望」『週刊金曜日オンライン』2025.10.16. 15:38. https://www.kinyobi.co.jp/kinyobinews/2025/10/16/antena-1672/#google_vignette

国家と自由

- ・「「国旗損壊罪」制定へ 26年通常国会に法案 自民党・維新合意」『日本経済新聞』2025.10.20. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA209Z90Q5A021C2000000/>
- ・「「国家情報局」創設へ、政府検討 市民監視強まる懸念も」『東京新聞』2025.10.24. <https://www.tkyo-np.co.jp/article/444657>
- ・「国家情報局の創設、木原稔官房長官が議論主導 早期の設置めざす」『日本経済新聞』2025.10.24. <https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA240UH0U5A021C2000000/>
- ・「参政、「国旗損壊罪」法案を提出」『時事通信』2025.10.27. <https://www.jiji.com/jc/article?k=2025102700820&g=pol>
- ・「「スパイ防止法」、高市政権発足で追い風に…かつては強い反発で廃案になったが、なぜ今？ 背景と懸念を解説」『JBpress』2025.10.28. <https://jbpres.ismedia.jp/articles/-/91377>
- ・「急浮上した「スパイ防止法」制定 自民・維新は早期成立で合意…野党には賛否「監視社会に拍車がかかる」」『東京新聞』2025.10.28. <https://www.tkyo-np.co.jp/article/445313>

ヘイトスピーチ・SNS 規制

- ・「法務省、ネット上の「ヘイトスピーチ」対策強化へ…SNS投稿の収集や分析・地方の事例聞き取り」『読売新聞オンライン』2025.10.02. 15:00. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20251002-OYT1T50132/>
- ・「外国人ヘイト、SNS投稿で初調査 来年度、対策強化へ被害把握—法務省」『時事通信』2025.10.18. <https://www.jiji.com/jc/article?k=2025101800138&g=soc>

2025年11月（20日まで）

- ・児子柊平「学校図書館におけるプライバシー論の展開：図書館と学校教育の衝突と接合」『図書館界』Vol.77No.4, pp.216-229
- ・庭井史絵「<書評>堂本かおる著『絵本戦争：焚書されるアメリカの未来』」『図書館界』Vol.77No.4, pp.254-255
- ・「参政党提出の「日の丸損壊罪」で何が起きる？ 表現の萎縮が「漫画やアニメ」にも波及するおそれも」『弁護士ドットコム』2025.11.04. https://www.bengo4.com/c_18/n_19572/
- ・「根下ろす排外主義、言葉であらがう 新潮コラム抗議 小説家の深沢潮さん語る」『朝日新聞』2025.11.0

6. 05:00. <https://www.asahi.com/articles/DA3S16338436.html>
- ・「知事選でデマ拡散、宮城県が「ファクトチェック」導入検討…「表現の自由」侵害リスク指摘も」『読売新聞オンライン』2025.11.08. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20251108-OYT1T50068/>
 - ・「経済安保法改正へ…海外での港湾整備など民間の事業支援や医療へのサイバー攻撃対応強化など」『読売新聞オンライン』2025.11.07. <https://www.yomiuri.co.jp/politics/20251106-OYT1T50192/>
 - ・「経済安保法改正へ 医療のサイバー攻撃対応強化、民間海外事業支援も」『毎日新聞』 2025.11.07. <https://mainichi.jp/articles/20251107/k00/00m/020/370000c>
 - ・「NHK 党の立花党首を逮捕 元県議の名誉毀損容疑一兵庫県警」『時事通信』2025.11.09. https://www.jiji.com/jc/article?k=2025110900150&g=soc#goog_researched
 - ・「NHK 党の立花孝志党首、前兵庫県議の名誉毀損容疑で逮捕…百条委元委員長の県議「安堵した」」『読売新聞オンライン』2025.11.09. <https://www.yomiuri.co.jp/national/20251109-OYT1T50030/>
 - ・「出版・書籍業界を代表する五つの国際団体、帰属意識の重要性を訴える声明を発表」『カレントアウェアネス-R』2025.11.10. <https://current.ndl.go.jp/car/260642>
 - ・嶋田学「市民がひらく図書館 個が生きる社会をはじめるには」『好書好日』2025.11.12. <https://book.asahi.com/article/16146609>
 - ・「NHK 特設サイト消滅に波紋「未来に残して」署名 1.7万人、広報「復活の計画なし」」『弁護士ドットコム』2025.11.16. https://www.bengo4.com/c_18/n_19620/ (リンク切れ). <https://news.yahoo.co.jp/articles/f2549eb60c6493cf001e0222a85556fef261b3>

6. 委員会からのそのほかのおしらせ

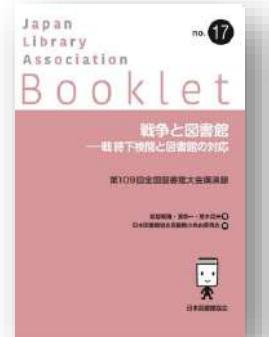
●最新刊！『戦争と図書館—戦時下検閲と図書館の対応 第109回全国図書館大会講演録』

新屋朝貴, 濱慎一, 荒木英夫著 日本国書館協会図書館の自由委員会編

日本図書館協会 2024年9月刊 (JLA Booklet no.17)

A5サイズ 63p 1000円(税別) ISBN978-4-8204-2403-1

2022年2月に始まった「ロシア・ウクライナ戦争」では、図書館の閉鎖、特定の書籍を撤去する取り組みなどが行われていると報じられています。日本においても、太平洋戦争で多くの図書館が被災し、蔵書の焼失、散逸などの被害に見舞われました。一方で、戦時下の統制において図書館が「思想善導」の機関としての役割を果たしたことでも忘れてはなりません。本書は、第109回全国図書館大会分科会「戦争と図書館」の講演録です。太平洋戦争中の思想統制、図書館への弾圧、図書館人の抵抗などをテーマとする3つの講演を収録しています。資料提供の自由を使命とする図書館のあり方を考えるとき、ぜひ手にしたい一冊です。



【もくじ】 新屋朝貴「講演 旧大橋図書館から引き継がれた発禁本」／濱慎一「講演 戦時下における県中央図書館と地方中央図書館—旧上伊那図書館の資料から」／荒木英夫「講演 戦時下の図書館での思想統制—検閲の事例と「図書館の自由」への道～」

【お詫びと訂正】 本書内に下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ページ・行	誤	正
p.12 下から5行目	竹内善作の抵抗という点では、このような文章も残っています。	竹内善作の抵抗という点では、坪谷善四郎による次のような文章も残っています。
p.13 上スライド見出し 同上 本文4行目	<u>竹内善作の抵抗</u> <u>竹内善作「擂粉木の重箱掃除」</u>	<u>坪谷善四郎の抵抗</u> <u>坪谷水哉(善四郎)「擂粉木の重箱掃除」</u>
p.20 注1)	竹内善作「擂粉木の重箱掃除」	坪谷水哉(善四郎)「擂粉木の重箱掃除」

●好評発売中！『「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」解説』(第3版)

日本図書館協会図書館の自由委員会編 日本図書館協会 2022年5月刊

A5サイズ 230p 1500円(税別) ISBN978-4-8204-2202-0

2004年の第2版から18年、この間、図書館をめぐるあらゆる状況が変化してきました。本書はその変化を踏まえて、図書館運営の根本原則と言える「図書館の自由に関する宣言 1979年改訂」を詳細に解説しています。あわせて、日本図書館協会の声明や見解、34点に及ぶ関連法規の抄録、諸外国の基準も豊富に収録しました。図書館の自由にかかわる問題が起きたときに、本書が冷静に判断する一助となるでしょう。

【主な内容】 1. 宣言の採択・改訂とその後の展開（宣言の採択／図書館の自由の展開／自由委員会の成立と宣言改訂／宣言改訂以降の図書館の自由をめぐる問題ほか） 2. 宣言の解説（国民に対する約束／図書館員の職業倫理／知る自由と図書館の自由／知る自由と情報公開／あらゆる資料要求にこたえる／提供の自由とその制限／図書館が知りうる事実とプライバシー保護ガイドライン／図書館と検閲／国民の支持と協力ほか） 3. 資料編（〈日本図書館協会の基準・見解〉図書館員の倫理綱領／差別的表現と批判された蔵書の提供について／デジタルネットワーク環境における図書館利用のプライバシー保護ガイドラインほか〈法令関連条文〉情報公開法／公文書管理法／障害者差別解消法／刑法／特定秘密保護法／少年法／マイナンバー法ほか〈諸外国の基準〉世界人権宣言／児童の権利に関する条約／ユネスコ公共図書館宣言／IFLAインターネット宣言ほか）

【お詫びと訂正】 本書内に下記の誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

ページ・行	誤	正
p.20 6行目	進展とともに頻出し	進展とともに頻出し
p.36 17行目	提供制限をしながら	資料提供をしながら
p.187 3行目	1948年6月18日	1939年6月19日



●「図書館の自由に関する宣言」はがき、

デザインをリニューアル！

はがき 10枚セット価格：100円+送料実費

はがき 5枚・宣言小冊子1冊セット価格：

100円+送料実費(郵便)

代金支払方法：郵便切手、応相談

問合せ：図書館の自由委員会事務局
(連絡先は本誌奥付に記載)



●利用案内・図書館の自由展示パネル

「なんでも読める 自由に読める!?」(2023年10月改訂)

図書館の自由委員会では、「図書館の自由」にかかわるさまざまな資料をわかりやすく提示する展示パネル「なんでも読める 自由に読める!?」を作成しています。2023年10月に、新型コロナパンデミックと図書館の自由、2019年策定「デジタルネットワーク環境における図書館利用のプライバシー保護ガイドライン」についてなど最近の課題を追加し、全15枚に改訂しました。どうぞご利用ください。

パネルの概要：B2横(51×72cm)15枚 アルミフレーム入り

解説リーフレット：会場配布用、展示資料目録も掲載、A3両面印刷二つ折り

使用料：無料 ※片道の送料をご負担ください。(170サイズ1個口、3,000~4,000円程度)

問合せ・申込先：図書館の自由委員会事務局(連絡先は本誌奥付に記載)

詳細 URL：https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/panel_annai/

●『図書館の自由』 ニューズレター 電子版配信案内

電子版(無料)配信希望者は、受信を希望するメールアドレスから、電子メールにてご連絡ください。

宛先: jiyu★jla.or.jp(送信時に★を@(半角)に変えてください)

件名: 「新規配信希望」としてください。

本文: 個人の場合は「氏名・所属等(任意)」、団体の場合は「団体名・担当係(者)名」をご記入ください。

※受信希望アドレスから送信できない場合は、本文中に受信希望アドレスをご記入ください。

※受領のご連絡をしますので、返信のない場合はお手数ですが再度ご一報ください。

※読み上げソフト利用の都合などでWord形式をご希望の方はお知らせください。

なお、本誌はダウンロードして図書館等で印刷して提供できます。

日本図書館協会のサイトリニューアルにあわせて、2025年7月より、自由委員会のページ(<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/>、右QRコードから)もカテゴリ等、大幅な修正を行っています。以前あったコンテンツが見つからない、リンク切れなどでアクセスできない、といった問題があれば下記までご連絡ください。



図書館の自由委員会からのお知らせは協会Xからも提供しています。[\(https://x.com/JLA_information\)](https://x.com/JLA_information)

日本図書館協会/JLA @JLA_information

#自由委員会 をつけていますのでこちらもご活用ください。

図書館の自由 第129号（2025年12月10日）

編集・発行: 公益社団法人日本図書館協会 図書館の自由委員会

不定期刊

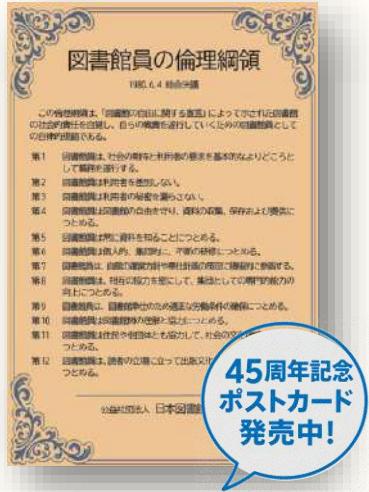
問合・連絡先: 公益社団法人日本図書館協会 図書館の自由委員会事務局

住所 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 (03) 3523-0811 (代)

E-mail jiyu★jla.or.jp (送信時に★を@(半角)に変えてください)

電子版購読費: 無料



知的自由の 戦後80年 と現在地

図書館員の 倫理綱領制定 **45周年** 記念講演会

「図書館員の倫理綱領」は、1980年6月、「図書館の自由に関する宣言」と表裏一体をなすものとして制定されました。自由宣言に記された知的自由の担い手である図書館員の専門性をまとめたのですが、現在ではあまり顧みられることがあります。

せん。戦後80年を迎えるいま、倫理綱領を読み直し、日本の、そして世界の図書館を支えてきた知的自由の「現在」を考えてみませんか？

日 時 2026年
2月14日(土)
14時～16時30分
(13時30分開場)
リアルタイム
同時配信も！
zoom

場所 日本図書館協会 2F 研修室 (〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14)

参加費・資料代 個人会員・施設会員・学生 550円／一般 1,100円（税込）

プログラム

【定員】
会場 50名
オンライン 75名
先着順

① 講演 「図書館員の倫理綱領」の来し方と
行く末:思想と選択を中心

♪ 京都大学准教授 福井 佑介 氏

主な著書等

『図書館の社会的責任と中立性: 戦後社会の中の図書館界と「図書館の自由に関する宣言」』松嶺社 2022
『図書館の倫理的価値「知る自由」の歴史的展開』松嶺社 2015
『図書館現象の時代における「知る権利」と「知る自由」』『現代思想』53巻6号, 2025.4, pp.184-195.

② 講演 自由で豊かな言論公共空間としての
図書館:自由のための倫理を考える

♪ 専修大学教授・図書館の自由委員 山田 健太 氏

主な著書等

『転がる石のように: 摆れるジャーナリズムと転む表現の自由』田畠書店 2025
『ジャーナリズムの倫理』勁草書房 2021
『法とジャーナリズム』第4版 効率書房 2021
『沖縄報道』(ちくま新書) 筑摩書房 2018

③ 質疑応答・フロアとのディスカッション

【配信は講演部分のみとなります】

申込期日・方法 2026年1月30日(金)まで

お申込みは QR コードから！

または以下の URL から！ 先着順のためお早めに！

詳しくは、JLA HP 内、図書館の自由委員会サイト
(<https://www.jla.or.jp/committees/jiyu-iinkai/j-seminar/seminar2025-2/>)まで

